










自然のビンゴ

楽しいビンゴゲームを園庭で行えば、ワクワク・ドキドキの自然発見の時間になります。五感を使って園庭を歩いて、今まで見えていたのに見えていなかった木々や虫、草花をたくさん見つけてみましょう。

ビンゴカードの例 (付録P.68)

しぜんビンゴカード		
 きいろいはな	 あり	 てんとうむし
 ちくちくするもの	 まるいもの	 においのするもの
 みつば	 ふわふわするもの	 ちょう

◎準備

先生が園庭や公園を歩き、五感を使って発見した自然をもとに、あらかじめビンゴカードを作ります。

◎あそびかた

- 1) ビンゴカードを配ります。
- 2) マス目に描かれている内容を読み上げて、何が描かれているかみんなで確認します。
- 3) 探す範囲と、集合の合図を確認したら探し始めます。発見したものに○をしましょう。
- 4) 集合の合図があったら、発見したものを発表します。

◎ふりかえり

- ・どのような自然が見つかりましたか？
- ・難しかったのはどれですか？
- ・よく似た形のものはありましたか？

◎発展・応用

- ・マス目の数は、年齢や周りにある自然の様子に応じて自由に設定してください。
- ・マス目に描くものは、絵でも写真でも、ざらざらしたもの、などの言葉でも構いません。年齢に応じてカードの内容を考えましょう。
- ・季節ごとにあそびを行うなど、このあそびを通して自然の変化を楽しみましょう。

このあそびの対象

生き物



多様性



環境教育の視点

ねらい

- 園庭の自然全般に興味を持つ。
- 自然界の様々な種類の存在に気づく。
- 五感を使って楽しむ。
- 見つけることの楽しさを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

実施例

年齢	5歳児	人数	18人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆実施日（遠足）までの活動

ビンゴゲームを楽しむ。（ゲーム自体に親しみ、楽しさを感じられるように過ごす。）前日にカードを渡し、自分で記名する。

◆当日の活動、子どもたちの様子

ビンゴカードは16マス（時間は50分）



探索中には自然と複数名のグループになり、カードを見せ合って発見したものを共有している。「どこで見つけたの？」などのやりとりも見られ、助け合いの気持ちが育っていくことにつながった。



じっくり地面を観察する様子。キラキラと光る砂の粒を見つけたり、アリが歩いている様子を見ている。「チクチクするもの」という項目では、ギザギザの落ち葉を示す子、小枝や木の幹を示す子様々な感じ方をしていた。園外で活動を行ったことで、より多くの自然物を見つけて楽しむことができた。

コラム 生き物の種類はどのくらいか

現在地球上には、およそ175万もの種が確認されています。これらは学名のある生き物で、これ以外にも地球上にはまだまだ未知の生き物が生息していると言われており、その数は300万種から1億1,100万種が生存しているとの推計もあります。

年齢	4歳児	人数	22人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

秋のビンゴカードを作り、遠足で実施。カードの内容は、秋のものを拾う、感触で味わう、目で見ると、の3パターン9種類とした。公園に着くと早速、「木の根っこみつけた」という子がいて、みんなで踏んでみた。すると、「ゴリゴリする」「固い」など子どもなりの反応があった。



青空の中に雲を見つけ、「おいしそう、もくもくしている」という子がいれば、それがどこにあるか分からない子もいて、「上を見てごらん」と声をかけ、見つけることができた子が「わあ、すごい！」と歓声をあげる場面もあった。



普段から自然と触れ合っている子はすぐにビンゴを完成させたが、自然に触れる機会が少ない子にとってはこのゲームをすることで、自然に目を向けるきっかけになった。また、友だち同士で同じものを探しながら会話をするなど、友だち関係が深まった。

関連するあそび

- 園庭の自然地図 …… P.18
- 自然レストラン …… P.20

実施例

年齢	5歳児	人数	21人	季節	春	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・公園内で発見できそうな自然をあらかじめカードに記入しておく。
- ・カードはそれぞれ塗り絵を楽しみ、自分のビンゴカードを用意しておく。
- ・首から下げられるようリボンをつけておく。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・公園に小高い山があり、山の中限定で行う。保育者3人で見守る。
- ・事前にビンゴカードに塗り絵をしたことで、さらに見つける意欲が高まっており、「よーいはじめ」の合図で決められた範囲の山の中を元気に探し始めていた。
- ・必ずグループごとに行動を、と伝えていたが、見つけるのはそれぞれ個々で楽しんでいた。
- ・時間は子どもの様子を見て決めたが大体20分程度だった。
- ・難しい、見つけられないという子には声を掛け、ヒントを言いつつ見守った。友だちどうしても教えあう姿も見られた。皆、時間内いっぱい山を駆け回り探索を楽しんでいた。



◆工夫したこと

クラスのキャラクター(架空)をカードに入れておくことで見つかるかどうか、盛り上がるようにした。

年齢	5歳児	人数	22人	季節	秋	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

園内の植物や木を見てまわった。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・自然ビンゴカードを作成(マス目は9つ)し、前日にあそびの紹介をする。「すぐにやりたい!」という子、「見つけるの苦手なんだよねー」という子、様々であったが、苦手と言っている子には個別に声をかける。
- ・ひとり1枚ビンゴカードとシールを持ち、園庭内で探す。ひとり1枚ずつカードを手にしているが、友だちどうして声をかけあい、見つけたことを伝え合う姿や、見つからない子に教えてあげる姿も見られた。
- ・全員探し終わったところで、ひとつひとつどこで見つけたか、何を見つけたか発表していく。見つけられたことをとても喜んでいる様子だった。
- ・園庭の自然地図につなげていく。

◆工夫したこと

カードの1コマに「いいもの発見」を入れ、自分がいいと思う自然のものを探そうにした。

◆ふりかえり

- ・子どもたちから「自然のものってなに?」と質問が出ると、「人が作っていないものだよ」と答えている子がいて、納得していた。
- ・マス目の中で「チクチク・トゲトゲしているもの」は色々な発見があり、それぞれ違っていた。(木の枝、気を保護している布、ドングリの先の部分、芝生など)
- ・寒くなってきて以前より虫がいけないことに気づき、いそうな場所を考えて探す様子が見られた。



チクチク

子どもたちは成長に伴い、理解できる言葉、使う言葉も増えて「チクチク」「ザラザラ」といった擬態語もわかるようになります。このあそびは、お題の擬態語を手掛かりに、見た目の感覚で自然物を集めるユニークなあそびです。

◎準備

園庭や公園の自然物にはどのような言葉（擬態語）が合うか、事前に見て考えておきましょう。

◎あそびかた

- 1) 先生が「チクチクするもの」というお題を出します。チクチクではなく別の言葉でも良いです。
- 2) 子どもたちは、「チクチクする」と感じたものを探します。
- 3) 探す時間は30秒から1分程度にします。子どもたちの様子を見て調整します。
- 4) どのようなものを見つけたか、みんなで見せ合ひましょう。
- 5) 「ピカピカ」「つるつる」など言葉を変えてやってみましょう。

◎ふりかえり

子どもたちが集めた自然物は、形や模様、手触りはどうでしたか？確認してみましょう。

◎発展・応用

子どもたちどうして、お題を出し合って行うことができるようになるの良いでしょう。

◎留意点

- ・子どもたちが持ってきたものについて評価するのではなく、そう感じた感覚を大事に受け止めましょう。
自然の持つ色や形を楽しむ感覚が大切です。
- ・探す範囲をあまり広げ過ぎないようにしましょう。
- ・探す時間は、初めは長くして、慣れてきたら徐々に短くしていくのも良いでしょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 園庭の自然全般をよく見る。
- 自然界の様々な種類の存在に気づく。
- 言葉を通して自然を楽しむ。
- 見つけることの楽しさを感じる。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園



つぶつぶ
(コブシの実)



ギザギザ
(ケヤキの葉)



チクチク
(アカマツの葉)

関連するあそび

- 園庭の自然地図 …… P.18
- 自然レストラン …… P.20

たからもの探し

園庭には、葉っぱや枝、木の実など様々な姿、形をした自然物が見られます。このあそびは、バンダナの下に隠した自然物とできるだけ同じ色、形、大きさのものを探すあそびです。バンダナで隠された自然物や周囲の自然物を注意深く観察することが大切になります。ゲーム性が強いので、純粋なあそびとしても楽しめるでしょう。

◎準備

- ・落ち葉や枝などたくさんの自然の落としものが見られる時期に行ってみましょう。
- ・直前に下見をして、あらかじめ葉っぱや枝などの自然物を拾っておきましょう。

準備物：バンダナ、自然の落としもの、B4程度の大きさの白紙

◎あそびかた

- 1) 2つ以上の自然物をバンダナの下に隠しておきます。隠す自然物は色や形の特徴がはっきり違うものがよいでしょう。
- 2) バンダナの下に「先生の大事なたからもの」が隠してあることを伝え、これと同じものをみんなで協力して探すよう伝えます。

◎ふりかえり

- ・先生の「たからもの」はどんな種類の自然物だったでしょうか？
- ・「たからもの」と子どもたちが集めた自然物は色や形、模様が同じだったでしょうか？ どう違ったでしょうか？

◎発展・応用

・拾ってきたものを元のところに返さず、そのまま「園庭の自然地図 (P.18)」や「自然レストラン (P.20)」などのクラフト活動につなげてみましょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 園庭の自然の落としものに関心を持つ。 ●観察力を高める。
- 姿や形、色に微妙な違いがあることに気づく。 ●見つけることの楽しさを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

- 3) バンダナの下自然物を20数える間だけ見せます。
- 4) 20数えたら、またバンダナで隠します。
- 5) 子どもたちは、同じ形、色、大きさのものを探します。(探す人数は個人でもグループでもよいでしょう。)
- 6) 子どもたちの探す様子を見ながら時間がきたら集合の合図をします。
- 7) 答え合わせとして白紙の上に見つけた「たからもの」を並べます。「そっくり」「似ている」などの評価をしてもよいでしょう。

関連するあそび

園庭の自然地図 …… P.18
自然レストラン …… P.20

実施例

年齢 3・4・5歳児 人数 一 季節 春夏秋冬 場所 公園

実施内容

◆準備

・下見をしてどこに自然物があるか把握した。いくつかの木や植物の特徴を実際に触って確かめ、紙に書いておいた。

◆準備物

ふろしき、ハンカチ、笛、のり、画用紙、クレヨン、自然物（落ち葉、どんぐり など）

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・園にない自然物を目にして面白がっていた。 ・思っていた以上に子どもたちは自然物一つひとつをよく見ていた。
- ・広い公園の中から「これだ！」と思うものを探し当てて楽しんでいた。 ・「たからもの」という言葉にとっても喜んでた。
- ・たからの地図と手がかりになる紙を手し、4～5人の4グループでたからものさがしをした。リーダーが紙を読み上げ、グループで手分けして探した。
- ・見つけてきたものをみんなに見せていろいろな葉があることを伝えていた。
- ・一枚の紙を見て探すには4、5人はちょうど良かった。
- ・保育者は見つけた自然自体がたからものというイメージでいたが、子どもたちは見つけた場所に他のたからものが隠されていると思っていたようだった。
- ・できたもので遊んだり、飾って友だち同士の交流の手段となっていた。

◆困ったこと

- ・広い場所だったのでもう少し狭い空間でも良かった。 ・ルールを理解するのが難しそうだった。
- ・掃除をしてしまい自然物が少なくなってしまった。事前に環境を整えておくことが大切。
- ・「たからもの」という対象物をはっきり伝えなかったこと、最終的に活動をどう終わらせるかを考えていなかったため子どもたちとイメージの行き違いがあった。



コラム どんぐりはなぜ丸いか

植物は子孫を確実に残すために、種子をできるだけ遠くにまき散らす必要があります。そのためにクヌギやコナラなどの木の種子（どんぐり）は、丸い形をしています。丸い形になることで、色々な方向に転がっていけるからです。そうしないと木の下に固まってしまい、どんぐりどうして発芽、生長の過当競争がおきるためです。また、丸い形になることで、鳥がエサとしてどんぐりをついばんだ時に、ツルツルすべって食べられないようになっています。

園庭の自然地図

園庭にどのような自然が見られるかを知っておくことは、幼稚園・保育所等での環境教育の基本です。普段見慣れた園庭も、子どもたちと五感を使って探してみると、気がつかなかった自然がきっと見えてくるでしょう。

◎準備

準備物：模造紙程度の大きな紙、ペン

◎あそびかた

- 1) 大きな紙に園庭の概略図をかきます。(おおまかに書いてあればよい。)
- 2) 「自然のビンゴ (P.12)」など、園庭の自然を探すあそびを子どもたちと行います。
- 3) あそびを通して見つけた自然を地図にかきこみます。落ち葉やセミのぬけがらなど本物を貼り付けてもよいでしょう。
- 4) できた地図をクラスの壁に貼ります。新しい自然を発見したらその都度、かき加えていきましょう。

◎発展・応用

- ・できあがった地図を他のクラスの地図と比べてみましょう。
- ・園内の目立つ場所に掲示して、色々な人に見てもらいましょう。
- ・季節ごとに自然の様子が変わるので、四季の園庭の自然地図をつくってみましょう。
- ・「自然のビンゴ (P.12)」、「チクチク (P.15)」、「たからもの探し (P.16)」など、園庭の自然を見つけた後の取り組みとして行っていきましょう。
- ・「みんなで生き物探し (P.45)」で見つけた生き物もかきこんでみましょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 園庭の自然物に関心を持つ。
- 自然物の種類、生息場所の違いに気づく。
- 協力して地図をつくる楽しさを感じる。
- 地図づくりを通して園庭に愛着を持つ。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園



◎留意点

公園で行う場合は、危険な動植物や場所の有無を事前にしっかり確認しましょう。

関連するあそび

自然のビンゴ P.12

チクチク P.15

たからもの探し P.16

みんなで生き物探し ... P.45

実施例

年齢	4歳児	人数	25人	季節	秋	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

数日前には散歩で南天の実やオナモミを見つけていた。

◆当日の活動

- ①園庭にはどんな植物があるのかを全体に投げかけ
- ②グループの名前決め
- ③その他どんな植物があるのか確かめる
- ④地図作り

◆子どもの様子

- ・遊びに使っていた草花や見た目でわかりやすい果実の名前がよく出ていた。

名前がわからなくても春に咲いた花のことは覚えている。（「むらさきのながいやつ！」⇒藤の花、「色水やった！」⇒オシロイバナ）

- ・グループの名前を決めてから後日、自分のグループ名の植物を探すゲームをしてお互いの植物を知る機会をつくる。

関心がなかった子も一緒に探すことで身近な自然に目を向ける機会を持つことができた。

- ・植物の写真をとり、皆で場所と名前を確認しながら地図に加える。⇒廊下に掲示。

今後散歩に行きながら園周辺の簡単な地図をつくり書き加えていくことを提案した。

◆ふりかえり

実践してみたところ、季節により葉の色や花の咲く時期もそれぞれ異なるため、1年を通して追っていけると、より身近に感じられることができたのではないかと感じた。遊びにもとりいれられるような働きかけもできたのではないかと思う。



コラム 「なぜ自然が大切か」 3つの理由

自然が大切だと言いますが、ではなぜ大切なのでしょう。3つのことが考えられます。

- 1) 生存基盤…46億年の地球の歴史の中で生物が誕生したのが35億年前。そこから少しずつ進化して今の「人」が数千万種類の生きもののひとつとしてあります。人の進化を支えているのが、この自然です。
- 2) 物質的基盤…人は生物、大気、水という自然（生態系）に支えられながら衣食住を得ています。このように自然環境は人が生きるための物質的基盤となっています。
- 3) 精神的財産…森林療法が注目されるように、自然は、人間が安心感とやすらぎを得る拠り所となっています。このように人間の精神的財産となるのが自然です。

自然レストラン

料理の盛り付けには、色鮮やかなものやダイナミックなものがある一方で、見た目は控え目ながら繊細かつ造形的なものも見られます。どちらも素材を活かした美しい盛りつけです。

気をつけて園庭や公園を見ると、そこには様々な色や形をした葉っぱや枝などの自然物が落ちています。こうした自然物という素材をいかして、みんなで美しくおいしそうなお料理を盛り付けてみましょう。

◎準備

実施する場所の自然物を使って、見本を作っておきましょう。

準備物：紙皿（グループ分）

◎あそびかた

- 1) 子どもたちをグループに分けて、各グループに紙皿を渡します。
説明「みんながコックさんになっておいしいお料理を作ってください。材料は、落ちている葉っぱ、木の枝、土、石など自然のものを使ってください。」
- 2) 自然の素材を集めます。
- 3) 集めた素材を紙皿の上にきれいに盛り付けます。この時、おいしそうに、こだわりを持つように促します。
- 4) できあがったお料理に名前を付けたら、全員で発表会をしましょう。

◎ふりかえり

食材に見たてた自然物の色や形、大きさを確認しましょう。

このあそびの対象

生き物



環境教育の視点

多様性



ねらい

- 植物（葉っぱ、枝など）には様々な色、形、感触があることに気づく。
- 自然界の色の美しさ、形のおもしろさに気づく。
- 見つけることの楽しさを感じる。
- 協力してつくることの楽しさを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

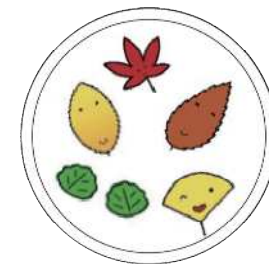
園庭・公園

◎発展・応用

- 紙皿でなく、お弁当箱でもできます。
- つながりたのしむあそび集[全体版]に掲載しているあそび「チクチク（P.15）」や「たからもの探し（P.16）」などの、拾いもの系のあそびの流れで取り組むこともできます。

◎留意点

- 様々な自然物の存在やその形、色に気づくことが主眼です。作品に対する評価はしないようにしましょう。
- ままごとにならないよう、意味付けをしっかりしましょう。



実施例

年齢 3歳児 人数 16人 季節 秋 場所 園庭

実施内容

◆実施日までの活動

葉や落ち葉などは掃除せず捨てないでとっておいてもらう。
紙皿の用意。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・葉っぱやお花（摘んでいいもの）を使ってお料理を作ってレストランにするよ！と見本を見せて始める。
- ・紙皿を配ると、一人ひとりお料理を始める。意図を理解していなかった数人は砂遊びを始めてしまったため、葉っぱやお花で作ろう！と声をかけ、遊びに誘う。
- ・出来上がったものを並べていくが、興味を持った子は紙皿以外にも砂遊び用の皿でいくつも作り、お料理の名前をつけて見せに来る。
- ・友だちどうして、「〇〇ちゃんは何を作ったの？」「同じだね！」などと話す姿も見られた。また、大きい葉っぱ！と言ってちぎったり丸めて楽しむ姿もあった。

◆ふりかえり

グループでの活動というよりは、個人または2～3人の友だちと見せ合いっこをしながらの活動となった。色や形についての探求までは難しかったが、それぞれ満足のいくものを作って楽しんでいた。何度かやるうちに色々気づくかもしれないと思う。



コラム 自然の不思議 ～紅葉～

樹木の紅葉は、春に向かっての準備です。秋から冬にかけて、気温の低下とともに、葉の葉柄の付根の部分に離層と呼ばれるコルク層が形成され、葉と茎の間で水や養分の流れが妨げられます。光合成によりつくられた糖分が葉に蓄積され、これから「アントシアニン」という赤い色素が形成されます。同時に葉緑素が分解されて緑の色素が減少していき、葉は赤く色付きます。これが紅葉です。アントシアニンが形成されない葉では、葉緑素が分解されていく過程で今まで目立たなかった黄色の「カロチノイド」という色素が目立つようになり黄葉になります。代表的な黄葉がイチョウです。植物の種類により、この過程には個性があり、紫、赤、橙、黄というように様々な色が形成されます。

関連するあそび

自然のビンゴ P.12
チクチク P.15

サウンドピカソ


人は情報の大部分を目で取り入れて、音は意識しないと聞いていないことがあります。園庭の自然の音も、普段聞き逃しているかもしれません。サウンドピカソは、意識して園庭のあらゆる音を聞き、聞こえた音を絵や記号にして描くあそびです。鳥の声、車の音、木々のざわめきなど、自由な絵や記号で表現してみましょう。

◎準備

園庭で聞こえた音を、絵や記号で紙に描いて子どもたちへの見本としましょう。

準備物：画用紙、画板、筆記用具

◎あそびかた

- 1) 園庭で目をして、耳をすまして、しばらくまわりの音を聞いてみます。
- 2) 聞こえてきた音を絵や記号にして描いてみようといひ掛けをして、先生が見本を示します。
例) 鳥の声 V V V 車の音  など
- 3) 1人1枚画用紙を配り、聞こえてくる音を描きます。
- 4) 出来上がったら、見せ合ってどんな音がどのように描かれたか話してみましょう。

コラム 鳥の声の意味と聞きなし

鳥の鳴き声には意味があり、鳴き声には「さえずり」と「地鳴き」の2種類あります。

①「さえずり」…オスがメスへの求愛のために鳴いたり、なわばりを主張するための鳴き声。「歌」とも呼びます。

②「地鳴き」…1年中オスもメスもなく鳴き声。

春先によく見られるメジロの地鳴きは「ティー」という声。さえずりは「チーチューチュルチーチュル」と複雑で長い声です。鳥の鳴き声を似た言葉に置き換えることを「聞きなし」といいます。ちなみにメジロの聞きなしは「長兵衛忠兵衛長忠兵衛」と言われます。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 自然界には様々な音があることに気づく。
- 音を自由に表現する楽しさを感じる。

年齢

5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

◎ふりかえり

いくつ音が聞こえたか？心地よい音はあったか？初めて聞いた音はあったか？など描いた絵や記号を元に、音について話し合ってみましょう。

◎発展・応用

- ・園庭に限らず、園外保育等に出かけたときに行き、園で聞こえる音との違いを発見してみましょう。
- ・実施する時間や季節をかえてやってみましょう。

◎留意点

- ・耳をすまして集中して音を聞くことが、このあそびの大切な点です。
- ・表現することに抵抗がある子や慣れない子には無理強いをせず、音を聞くことに集中させましょう。

関連するあそび

音のあそび …… P.9